

2018 年度
専門学校サンテクノカレッジ
学校関係者評価 報告書

評価対象期間：2018 年 4 月 1 日～2019 年 3 月 31 日

2019 年 12 月
学校関係者評価委員会

目 次

I	学校関係者評価の概要と実施状況	1
	1. 学校関係者評価の目的	
	2. 学校関係者評価委員名簿	
	3. 学校関係者評価委員会の実施状況	
II	学校関係者評価委員会 評価結果報告	2
	1. 教育理念・目的・育成人材像	2
	2. 学校運営	2
	3. 教育活動	3
	4. 学修成果	4
	5. 学生支援	5
	6. 教育環境	5
	7. 学生の受入れ募集	6
	8. 財 務	6
	9. 法令等の遵守	7
	10. 社会貢献・地域貢献	7

I 学校関係者評価の概要と実施状況

1. 学校関係者評価の目的

専門学校サンテクノカレッジの学校関係者評価の目的は、以下の通りである。

- ①自己評価の評価結果について、学校外の関係者による評価を行い、自己評価結果の客観性・透明性を高めること。
- ②本校の専門分野の関係団体、専門分野の関係業界、地元自治体、卒業生など、本校と密接に関係する者の理解促進や連携協力による学校運営の改善を図ること。

2. 学校関係者評価委員名簿

区 分	氏 名	所 属 等
関係団体	廣瀬 不二夫	一般社団法人 山梨県情報通信業協会 事務局長
関係業界	小野 俊 治	株式会社ジインズ 取締役
	※勝 俣 義 也	株式会社エスピーシー 顧問
地元自治体	丸 山 英 資	甲斐市 秘書政策課長
卒 業 生	井 上 満 邦	サンテクノカレッジ同窓会 会長

※ 委員長

3. 学校関係者評価委員会の実施状況

(1) 第1回委員会

- ・日時：2019年10月30日（水）11:00～12:00
- ・場所：専門学校サンテクノカレッジ 会議室

(2) 第2回委員会

- ・書面による学校関係者評価報告書の内容確認および承認。

II 学校関係者評価委員会 評価結果報告

1. 教育理念・目的・育成人材像（評価結果 / 適切：5名、不適切：0名）

－委員コメント－

【評価できる点】

- 新しい概念や技術が生まれる情報技術をどのように教育の中に取り入れていくかは、大変難しい問題であると思います。そのような中で、常に社会に目を向け学科等に反映していることは評価できます。
- 各業界ともIT技術の進展により、様々の最新技術が導入され、これに適應する新たな技術を追求する人材が必要となる中、時代に即した必要とされる人材を育てる教育理念・目的・育成人材像が確立されている。
- 1－1、1－2、1－4で具体的な職業目標を設定しているので、関連する人たちが理解しやすい。
- 1－3将来構想は、業界ニーズの参考、求人企業からの必要な人材等についての調査の実施、最先端のトピックスについても研究や外部講演、授業の取込を積極的に行っておりPDCAが有効に動いていることより、評価3から評価4と判断できます。
- 社会のニーズに対応しながら、常にカリキュラムや学科を更新していく点は、専門学校に課せられた使命であるが、敏速に対応しているように感じます。

【改善すべき点】

- 学校の理念等の外部への周知に関して、関係者にはすでにいろいろな方法で周知されていますが、今後は外部への周知がさらに重要になってくると思われます。その点で、外部HPでの関連ページで学校HPにリンクさせるのも良い方法だと考えます。
- 学校の定める理念・目的・育成人材像・特色・将来像などについて周知することは、学生の確保をはじめ、学校の経営には必要不可欠であります。ついては、より企業に対し、これまで以上の学校の存在感及び卒業生の就業実績を報告書に盛り込んだほうが良いと思います。
- 1－5の業務・業種・技術を軸としたマトリックスから、一定期間での目標の見直しを行うと、さらに学校の幅が広がるのではないのでしょうか。

2. 学校運営（評価結果 / 適切：5名、不適切：0名）

－委員コメント－

【評価できる点】

- 学校運営に関する整備は、準備を進めることに大変な労力が必要とされますが、問題点をそのままにせず、前回指摘のあった「個人情報保護規程」が策定されている点など、前進していること、また、情報を共有化している点は評価できると思います。
- 抱えている問題点を率直に提起して改善しようとしていることは、素晴らしいと思います。

- 適切な記載内容と判断します。
- 学校運営は、学校が存続していくために非常に重要な項目であるが、取り組みについての報告を受けて安心しました。
- 評価の低い項目があるが、対策も示されているので、今後の課題としていけば良いと思います。

【改善すべき点】

- コンプライアンス対応マニュアル、情報公開基準などは、最近の傾向として当事者より外部からのクレームが問題を大きくする傾向があると思います。マニュアルがあるかないかで、対策を取っているかどうか問われることもあるので、早急に作成することが重要ではないでしょうか。
- マニュアルに関しては、最初は大まかな部分で作成し、徐々に肉付けをして行く方が実情に合ったものができると思います。
- 教職員の労働条件を検証するテーマも取り上げたらどうかと思う。
※働き方改革とも関連すると思うが、企業ではE S（従業員満足度）が生産性やC S（顧客満足度）の向上に必要という考えがある。

3. 教育活動（評価結果／適切：5名、不適切：0名）

－委員コメント－

【評価できる点】

- 教職員が学生一人一人と接触できていることは、大変評価できると思います。
- 教育部分では、体系的な位置づけができており、指導体制は常に状況を判断し改善している点でも評価できると思います。
- 教育活動については、教育理念の実現を図るため、専任教員はもとより外部からの非常勤講師の配置は、実践的な知識や技術指導の実施に有効な手法であると評価します。
- 情報分野は技術の進展が激しいが、適宜カリキュラムの見直しも行われている。
- 高等教育機関への修学支援制度のセミナーに参加したとの報告を受け、これまでの取り組みの維持とさらに積み上げている点を評価します。

【改善すべき点】

- 教員確保に関して、特に専門的な知識を有する人が必要ですが、卒業生などを対象としてはいかがでしょうか。
- 学生への教育指導の向上を図る一方で、経営及び指導者が、より必要とする知識・技術を習得する機会の創出の強化が必要だと思います。
- 3－7の授業の評価方法は、アンケート以外にも検討しているのでしょうか？
例えば、「基本情報技術者試験」の合格率の向上により客観的に評価できる。
あるいは「授業の評価はアンケートによるのが一般的であるが、膨大な・・・」と修正してはどうでしょうか
- 3－12の難関な「情報セキュリティスペシャリスト(R01では県下30名)試験」をパ

スした講師の確保などを、もう少しアピールしてはどうでしょう。

- 3-13のトポロジの翻訳が前年度と同様に記載されていますが、「継続」なのでしょうか、それとも一般的な書物を指しているのでしょうか。もし、後者でしたら原題を記載した方が良いかと思われます。

4. 学修成果（評価結果／適切：5名、不適切：0名）

－委員コメント－

【評価できる点】

- 就職内定率は、学生が学校を選ぶ際に参考としているという話を聞いたこともあり、前年度、未内定の学生が2名だけというのは、大変評価できると思います。
- 退学者に関しても、成績不良による退学者がなかったことは、教育活動における成果が出ているものと大変評価できると思います。
- 就職率は、社会情勢の変化や景気などにより数字だけでは判断できないが、各種実績の推移のとおり一定の成果が上げられ、特に資格取得については、これまで以上の成果が上げられ高く評価できます。
- 基本情報技術者試験の合格率が、平均より10%以上高い。
- 退学率と退学理由を把握して、その対応を実施している。
- 4-2の資格取得は、生徒の能力に関係するかもしれませんが、2018年度の合格率の向上は目に見張るものがあります。基本・応用情報技術者の合格者は、入社後も即戦力になれる傾向があります。継続的な努力をお願いしたいです。

【改善すべき点】

- 就職活動に関しては、インターンシップ、会社訪問は企業を自分の目で見るできるので、積極的に行ってほしい。説明会への参加や会社訪問は、学生がある程度絞って実施している感があります。数多くの企業への訪問を実施することで自分のやりたいことも見えてくるように思います。
- 安定経営に必要な学生数の確保については、まさしく学修成果の情報発信が必要だと考えます。報告書での資格取得については、前年対比では大幅に合格者が多いことに対し、どのような教育指導による成果なのか、どのような技術なのか、様々の分析が行われていると思いますが、この実績を今以上に公表することで、より評価の信用度に繋がると思います。
- 4-1、4-3の成績不良による退学者がないことは、関係者の並みならぬ努力があった事と思われます。次のステップとして、成績不良の削減化の検討をお願いしたい。入学時の成績と比較できるものがあると良いかと思ひます。
- 退学者の増加は、学校運営の財政面に大きな影響があるので、低減をはかる必要がある。しかし、成績不良者について、本来は留年とすべき学生を卒業させることは、将来的に学校のブランドに傷がつくので、留意して低減に努めていただきたい。

5. 学生支援（評価結果／適切：5名、不適切：0名）

－委員コメント－

【評価できる点】

- 学生の支援活動に関しては、教職員が学生一人一人を大切にしているように感じているので、大変評価しています。
- 学生を支援する制度が充実していると感じる。特に、課外活動の実践では学生の孤立感を防止する意味から重要だと思う。
- 適切な記載内容と判断します。
- 高等教育の修学支援制度の対象校の認定を得たことを評価します。

【改善すべき点】

- 学生が教職員を信頼していることは大変評価していますが、「先生が何とかしてくれる」という気持ちが、学生を待ちの姿勢にしてしまうのかもしれないと、思うこともあります。これは、家庭的な問題が大きい部分があるので大変難しいですが、社会に出ると、自分が考えて行動しないと前に進むことができないので、そのあたりの教育も必要だと思います。
- 就職支援については、地方自治体などについても情報技術の進展により技術者の確保が必要不可欠であるため、新たな就労先の開拓として、官公庁関係への就労対策を検討してはいかがですか。
- 山梨県においては、技術職に対する就労を強化しているため、山梨県との連携を図り、人材育成及び就労対策の強化について来年度から調査研究を実践してみたいはいかがでしょうか。

6. 教育環境（評価結果／適切：5名、不適切：0名）

－委員コメント－

【評価できる点】

- 施設・設備に関しては、基準をどこに置くかで、評価は違ってくると思われます。特に、車椅子の学生が支障なく学生生活を送れていることは評価できると思います。
- 技術習得の学習では、最新の設備が必要であり、適切な環境整備が行われている。
- サーバやクライアント環境を含めたネットワーク環境も準備されている。また、AIやIoTなどに関連するセンサーネットワーク関連設備も用意されていると推定できるので、学生の向学心も満たされていると思える。
- 適切な記載内容と判断します。
- 車椅子を使用する学生に対応するためのバリアフリー化、防火管理者を設置しての防火訓練の実施など、実際に行うと大変難しい事象に対しても積極的に取り組む点は高く評価したい。

【改善すべき点】

- 防災訓練なども実施されており問題はありますが、障害者に対する防災対策もしっかり整えておく必要があると思われます。
- 消火器、AED についての使用方法は、ある程度の経験がないと実際使用するときはどうして良いかわからなく、怖いと思うこともあると思うので、年間定期的に実施してもいいかと思います。
- 学外の実習であるインターンシップの体制整備として、山梨県をはじめとする官庁への体制づくりを提案します。まず、甲斐市への取り組みから実践し、県内自治体への受け入れ体制整備を提案します。

7. 学生の受入れ募集（評価結果 / 適切：5名、不適切：0名）

－委員コメント－

【評価できる点】

- 現状の中では、募集に対して各種の方法を取っており、評価できると思います。
- メディアやSNSを利用した募集活動を活発に行っている。
- 適切な記載内容と判断します。

【改善すべき点】

- 学校ホームページの中に、動画などを利用して受賞作品などの紹介をしてはどうでしょうか。
- 募集の一環として、在学生、卒業生による情報発信の実施を提案します。
求められる成果は、まさしく学生が学校の強み弱みを実感しており、入学を希望したくなる情報発信が期待できると考えます。併せて、学生などによる情報配信は、コスト削減にも役立つかもしれないので、検討してみたいかでしょうか。
- 7-1、少子化の中、細部にわたっての募集活動の努力は評価に値しますが、小学生、中学生、学校の先生方へのプログラミング教室を、メディアを通したニュースによる配信によって学校のCMにつなげていくとよいと思います。
- 高校生の関心が高いユーチューブなどの動画を活用しても良いと思います。

8. 財務（評価結果 / 適切：5名、不適切：0名）

－委員コメント－

【評価できる点】

- 無借金状態での運営は、大変評価できると思います。
- 適切な記載内容と判断します。
- 学費が収入の大半を占めるため、収支の予測がつきにくいと思うが、設備の修繕計画を盛り込んだ中期事業計画と収支計画を立てた点は評価すべきだと思います。
- 学費収入確保のために外国人留学生を受け入れることに消極的で、安易に受け入れないという方針は、地域密着の学校としての責務を考慮すると支持できます。

【改善すべき点】

- 今後、少子化が進む中で、いかに収入の確保をするかが大きな課題になると思われます。郡内の学生の場合、通学距離が長く、アパートの手配等を考えると東京方面への進学を考えてしまうと思います。県外の学生を含めた中で、学生寮などを検討してみてもいいでしょうか。
- 財務については、数字による報告に加えて、最低限の財務諸表により客観的な説明を行い、経営の安定及び信頼度を高めてはいかがでしょうか。
- 学校運営の2-2では中期的な事業計画がないと記述されているが、8-2では中期の事業計画と収支計画の概略を策定していると記述されている。

9. 法令等の遵守（評価結果 / 適切：5名・不適切：0名）

—委員コメント—

【評価できる点】

- 外部評価を含めたPDCAを回している点が評価できます。
- 9-2の個人情報の対策は、情報処理教育を指導している立場上、大上段に構えすぎ進展が遅れた危惧感がありますが、進展がみられるのは評価に値します。IPAの「SECURITY ACTION」のロゴを取得することを計画の中に取り込まれるとより良いかと思います。
- 個人情報保護規定を作成した点が評価できます。

【改善すべき点】

- 基本的な部分での対応は、すでにできていると思われます。詳細については、担当は大変ですが、具体的な問題とともに修正をかけていくことが必要だと思われます。
- 今後は学生に対してSNSなどの情報発信ツールに対するコンプライアンスの考え方の指導も強化していただきたい。

10. 社会貢献・地域貢献（評価結果 / 適切：5名・不適切：0名）

—委員コメント—

【評価できる点】

- 社会貢献・地域貢献は、積極的に実施されていると思います。
- 将来性も見越した中でのキッズプログラミング教室の開催は、甲斐市を今後、担う人材育成に貢献していると大きな評価ができます。
- 学校設備や資源を有効に活用した地域貢献を実施している。特に小学校（生）を対象としたイベントは重要だと思います。
- 2020年度より開始される「プログラミング思考」の教育支援を教師だけでなく生徒に対しても実施している点、警察へのサポート等に講師だけでなく学生も参加している点は、評価に値すると思います。
- 警察や甲斐市への協力など、常に地域貢献に取り組んでいる点は評価できます。

【改善すべき点】

- 会議の中で話題になりましたが、地元官公庁と連携をしていくことは大変意義のあることだと思います。
- 国の施策である地方創生は、産学官などの連携であります。学校がより社会・地域への貢献及び学校の活動 PR を行う手法などとして、甲斐市と人材育成協定などの締結により、甲斐市との連携を提案します。
- 警察関係、学校の先生、教師、保護者と、貢献対象者が特定の人でなく、一般の人をも含める何かを取り組まれるとより良いと思います。
- 改善ではなく今後の取り組みとして、太陽祭での学生作品の展示を、学校教育の成果と捉えて、広報活動の一助にできるかを検討していただきたい。
- 学生のボランティア活動について、単位や評価をつけることができるかを検討していただきたい。